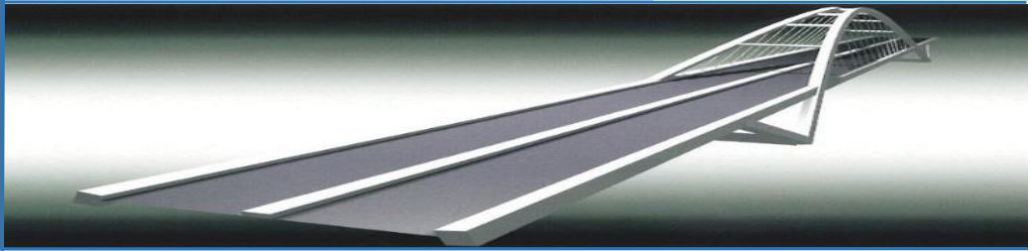


日大構造の会

第1号
2015.7.15発行



5月研究会
開催

「構造エンジニアという職域」構造エンジニアの魅力を語る
リサーチ・リーダー 日本大学教授 関 文夫先生

共催 | 日本大学理工学部土木工学科構造系研究室・日大構造の会
後援 | 桜門技術士会

去る平成27年5月16日(土)、日本大理工学部1号館CSTホールにて、5月研究会が開催されました。リサーチ・リーダーの関文夫先生が中心となり、企画立案から懇親会の準備までしていただきました。



リサーチ・リーダの関文夫先生
(写真はFacebookより)
日本大学理工学部
土木工学科教授
構造・デザイン研究室

5月研究会の課題は、「「構造エンジニアという職域」構造エンジニアの魅力を語る」で、就職活動に橋梁業界を考えている人、将来、構造エンジニアの世界に足を踏み出そうとしている人たちが多数参加されました。

研究会は授業の終わる16時40分に開会いたしました。まず関文夫先生の挨拶があり、本研究会の目的が話されました。続いて共催である日大構造の会の幹事・森正忠氏(昭和42年卒)から当会の紹介がありました。

関先生の議事進行により、パネルディスカッションに先立ってパネラーである橋梁エンジニアの3氏の方に基調講演をしていただきました。

【建設コンサルタント業界からは粟津雅樹氏に講演していただきました】



粟津雅樹氏

日本大学理工学部土木工学科
昭和54年3月卒業
株CPC取締役東京副社長
・技術士(建設部門)
・道路橋点検士

粟津雅樹氏は、建設コンサルタントの魅力ある仕事の中から、事例紹介として「南海トラフ巨大地震津波による橋梁耐波性能影響検討」を取り上げ、自ら陣頭指揮をとって津波による新しい防災の考え方を熱く語られました。

学生は長年経験されてきた技術を土台に新しい分野を開拓していく熟練技術者の魅力にとりつかれたように聴講していました。



【PC橋業界からは高岡怜氏に講演していただきました】



高岡 怜氏

日本大学理工学部土木工学科
平成22年3月卒業
三井住友建設(株)に入社
高架橋の現場、設計を経験し現在、技術本部第一技術部土木構造技術グループで活躍中
・技術士補

講演は、PC橋の原理からはじまり、PC橋の歴史から最近の事例までの話がありました。学生は授業の延長線のイメージ容易に理解できたようです。ここで、話題が最先端技術に移り、コスト削減、工期短縮、桁の軽量化の究極の追及。工場で製造するプレキャスト化による急速施工。どれも大学の講義にないものばかりです。さらには、景観の創造。第一線で活躍する高岡怜氏は、構造・技術・景観の究極の追及こそPC橋の魅力であるとしめくりました。特に女子学生は雲の上の「ドボジョ」のように感じたのではないのでしょうか。

【鋼橋業界からは村田晶氏に講演していただきました】



村田 晶氏

北海学園大学土木工学科
平成4年3月卒業
松尾橋梁に入社、架設工事、工場製作、設計を経験
その後、コスモ技研(株)に転籍
現在、東京支社技師長。
・一級土木施工管理技士 ・技術士補

設計会社、製作会社、架設会社と鋼橋の分業化が進む現在、鋼橋の全ての分野を経験してきた村田晶氏に鋼橋に魅力を語っていただきました。

鋼橋は、一般の土木工事は施工が主であるのに対し工場製作が主体であることから、土木工学科の学生さんには理解しにくいと思われる、どちらか言うと造船に近いかもしれないとの前置きの説明がありました。そして世界で唯一日本のみが多くの鋼橋を建設しており、海外ではほとんど建設されていない。それは日本独自の国土によるものであり、鋼橋技術も世界一である。また、鋼橋はコンクリート橋とは異なる多くの利点がある。補修や架替えに至っても殆ど交通を遮断することなく行える等、日本の国土では必要不可欠であると、日本の鋼橋技術の素晴らしさを語られました。

3氏の基調講演が終わると10分間の休憩に入り、その間壇上ではパネルディスカッションの準備が整えられました。



パネルディスカッション

左より、関先生、栗津氏、高岡氏、村田氏

関先生は女性の土木業界への進出を進めておられ、「ドボジョ」の先輩、「ドボジョ」を目指す学生にかこまれ、これからの土木業界のありかたについてお話されておられました。



関先生と「ドボジョ」

関先生が司会をされ、基調講演をされました3氏にそれぞれの分野でのやりがい、魅力、苦勞したこと等を、具体的に質問されました。3氏はそれぞれの質問に対して、実経験の中から熱い思いを語られました。下準備なしのライブ・ディスカッションで、現実味があり学生は間近に控える就職を頭に描いて聞き込んでいるようでありました。スケジュールの関係ではあまり時間がとれませんでしたでしたが、今までにない企画で聴講者を巻き込んだ盛り上がり様でありました。

パネルディスカッション終了後、学生が製作した錦帯橋の模型を見学し、会場を懇親会場の5号館学生食堂に移動いたしました。

懇親会は、まず関先生から挨拶があり、日大構造の会の事務局幹事の脇氏が乾杯の発声により開始されました。



懇親会風景

活気に満ち溢れるがよく食べる、さすが若い



乾杯の発声 脇氏

脇正鋭氏
日本大学理工学部土木工学科
昭和42年3月卒業
三菱原子力エンジニアリング開発
株式会社元社長
日大土木構造の会・事務局幹事

今回の研究会は学生の参加者が多く、終始活気に満ち溢れたムードで歓談が行われました。途中で、鎌尾先生をはじめ何名かの方も加わっていただき、益々盛り上がる中、関先生の締めにより無事終了となりました。

以上、ご報告申し上げます。

文責：森正忠(事務局・幹事)

今回の研究会は学生の参加者が多く、特に就職活動中の学生が多数でした。学生は、先輩を取り囲みいろいろと質問攻めのような様子でした。



質問に答える加島氏

加島豊氏
日本大学理工学部土木工学科(昭和42年3月卒業)
大豊建設株式会社
技術顧問
・技術士(建設部門)



関先生に制作していただいたポスター